

# 龍谷大学 学生気候会議の教訓

斎藤文彦

龍谷大学

[fumis96@world.ryukoku.ac.jp](mailto:fumis96@world.ryukoku.ac.jp)

# 自然エネルギー大学リーグ

<https://uccn2050.jp/>

カーボンニュートラル達成に貢献する  
大学等コアリション



大学等コアリションについて



WGについて



新着情報



参加機関紹介



事務局からの挨拶



運営体制



参加方法



活動記録



問合せ先

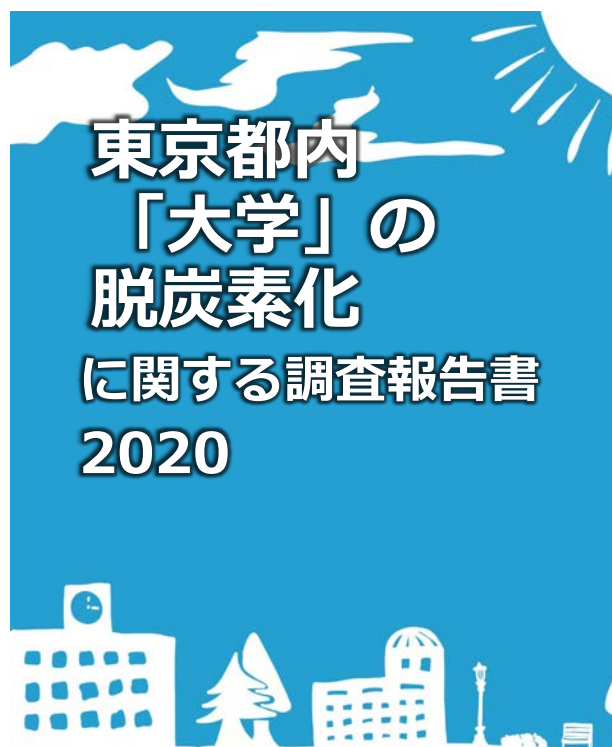
参加大学等の持つ「知」を結集  
カーボンニュートラルの実現に貢献する



<https://www.re-u-league.org/>



<https://go100re.jp/2492>



脱炭素投資研究会  
パワーシフト・キャンペーン運営委員会



- 約半数が温暖化対策に関するビジョンを持っていると回答したが、その具体的目標のほとんどが都条例、省エネ法等の規制についての記載にとどまっている。
- 約半数が温暖化対策に関して部門間横断で協議を行う場・会議等がないと回答している。

# 龍谷大学 学生気候会議

CLIMATE STUDENT ASSEMBLY  
at RYUKOKU UNIVERSITY

Dec.

# 2021



## WHAT IS 《学生気候会議》?

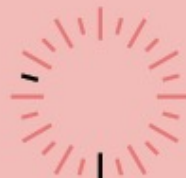


みなさんも「この夏はとても暑いな」とか、最近は「異常気象続きだな」とか思っていないか？これからの暮らしが気になる方、ぜひ一緒に地球の未来や私たちの将来について話しましょう。

今回行う《龍谷大学学生気候会議》では、温暖化対策の現状や目標について話し合い、「脱炭素社会」に向け、「食」「住」「学び」「消費とゴミ」などをキーワードにみんなで議論します。

話し合いの結果は、大学や京都市に見てもらおう予定です。

- 会場 龍谷大学 深草キャンパス ※感染状況に応じてオンライン開催の可能性あり
- 参加人数 30-40名 ※2日間参加できることが条件です
- 方法 右のQRコードからGoogle Formよりご応募ください  
応募締切: 11月5日(金)
- 謝礼 3,000円のギフトカード



12.5 SUN  
12.11 SAT  
9:30 - 17:30 ころ  
At the FUKAKUSA CAMPUS



主催 | 龍谷大学学生気候会議実行委員会、龍谷大学 LORC 後援 | 龍谷チャレンジ for SDGs  
問い合わせ | [lsrc.info@gmail.com](mailto:lsrc.info@gmail.com)

# 気候会議とは

- 気候変動について、市民の意見を顕在化し気候ガバナンスに反映させうるツール
- 既存の政治・政策過程の対応の遅れに対する市民社会の不満や改革の要請
- 手法としての新しさは特にはない：「市民議会 (citizens' assemblies)」「市民陪審 (citizens' juries)」「討論型世論調査 (deliberative polls)」など



# 気候会議の実践時における 共通要素

- 無作為抽出された市民のグループによる議論・対話
- 気候変動問題に関する専門家からの講義形式のインプット
- 議論や報告書作成時の専門家グループによるサポート
- 最終意見をまとめるための参加者による投票

# 気候会議の特徴・要点

- 人間社会の根本的な変革を必要とする気候変動対策に、社会正義や公平性といった視点を包含する「新しい形の民主的正当性」を確保する  
(Wells, et al. 2021, p.4)
- 市民の意識喚起・知識向上により、脱炭素化政策の実効性を高めることが期待
- 結果に対する政府・自治体のコミットメント：  
フランスではすでに提言の多くが議会での議論や政策実践へ
- 既存の代表性民主主義システムにおける位置付けの議論





札幌市気候変動対策行動計画（案）  
～ゼロカーボン都市「環境首都・SAPPORO」を目指して～

概要版

1 計画の位置づけと目的

- 持続可能な脱炭素社会の構築に向けて、気候変動対策（緩和策・適応策）を推進するために策定。
- 現行の札幌市温暖化対策推進計画と、札幌市エネルギービジョン、札幌市役所エネルギー削減計画を統合のうえ改定。また、気候変動適応法に基づく地域気候変動適応計画としても新たに位置づけ。
- 2050年の目標と本市のあるべき姿を設定し、2030年の目標やその達成に向けた取組等を示す。

2 気候変動対策に係る国内外の動向

(1) 国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択【2015年9月】

- 「誰一人取り残さない」という理念のもと、人間活動に起因する諸問題（気候変動、エネルギー、貧困・飢餓など）を喫緊の課題として認識し、国際社会が協働して解決に取り組んでいくための目標。

(2) 「パリ協定」の採択・発効【2015年12月採択、2016年11月発効】

- 地球の平均気温の上昇を産業革命以前との比較で2℃未満に抑える（1.5℃に抑える努力を追求する）ため、今世紀後半に世界全体の温室効果ガス的人為的な排出量と吸収量の均衡を達成する（温室効果ガス排出を実質ゼロとする）という長期目標が示されている。

(3) IPCC「1.5℃特別報告書」の公表【2018年10月】

- 気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2050年前後に二酸化炭素排出量を実質ゼロとする必要があると指摘されている。

3 旧計画等の総括

- 市域の温室効果ガス排出量は2012年をピークとして減少。今後さらに以下の取組強化が必要である。
  - ・電気・ガスなどCO2排出の少ないエネルギーへの転換（札幌市温暖化対策推進計画）
  - ・住宅の高断熱・高气密化や高効率暖房・給湯機器の導入（札幌市エネルギービジョン）
  - ・市内の再生可能エネルギーや分散電源の導入、道内の再生可能エネルギーのさらなる利用拡大（札幌市エネルギービジョン）
  - ・市役所におけるエネルギー使用量削減や再生可能エネルギーの導入拡大（札幌市役所エネルギー削減計画）

4 2050年の目標と本市のあるべき姿

- 脱炭素社会の実現に向けた世界の潮流や深刻化する気候変動の影響、科学的知見等を踏まえ、札幌の恵まれた環境を次世代に引き継いでいくとともに、国際都市として積極的に役割を果たしていくため、市域における2050年の温室効果ガスの削減目標を以下のとおり設定する。

2050年目標 温室効果ガス排出量を実質ゼロ※とする（ゼロカーボン）

※市域全体で人為的な排出量と吸収量との均衡を達成すること

# 龍大学生気候会議の意義・目的

## ○ 意義

- 気候正義の観点から、若者世代を特に意識した気候会議の実践
- 参加する学生たちが自身が学び、知識を深め、行動につなげるという教育的効果

## ○ 目的

- ① 気候変動問題に対する参加学生の理解を深めること
- ② 対話プロセスを通じた主体性の涵養と担い手の育成
- ③ 副次的に大学（や社会）への提言作成を目指す

# 龍大学生気候会議までの準備

- 2021年4月22日 LORC研究会「完全オンラインによる無作為抽出型の市民会議～気候市民会議さっぽろ2020の開催概要と結果～」北海道大学 三上直之先生
- 龍谷チャレンジに応募 龍谷大学学生気候会議実行委員会発足
- 2日間の会議のデザイン（京都府地球温暖化防止活動推進センター副センター長 本原浩貴氏、認定NPO法人気候ネットワーク上席研究員 豊田陽介氏）
- 11月26日（金曜日）ファシリテーション研修（実行委員会メンバー）
- 12月5日（日）・11日（土）龍谷大学学生気候会議〈両日とも対面で実施〉

# 龍大学生気候会議

- みなさんも「この夏はとても暑いな」とか、最近では「異常気象続きだな」とか思っていないですか？これからの暮らしが気になる方、ぜひ一緒に地球の未来や私たちの将来について対話しましょう。
- 今回おこなう「龍谷大学学生気候会議」では、温暖化対策の現状や目標について話し合い、「脱炭素社会」に向けて、「エネルギー」「食」「住」「交通」「学び」などをキーワードにみんなで話し合います。
- キャンパス内にポスター、立て看板、チラシ、ポータル ⇒ 46名が応募、23名が参加
- 多様な学部・学年・留学生の参加者から構成されるチーム編成

# コミュニケーションデザインの 観点から

- 学部や学年を超えた参加者同士が話せるようなチーム構成〈異なる他者との対話による気づきや省察を目指す〉
- 学生たち自身が話し合いのファシリテーター役を担う〈主体性を育てる教育的効果〉
- できる限りオンラインでの実施ではなく、教室で実際にホワイトボード、付箋、模造紙を使用し対話の「場」の共有を目指す
- アイスブレイクやチェックイン、チェックアウトの時間を取り、参加者としてのアイデンティティの構築を促進する

# 2日間の学生気候会議

開催期間：12月5日、11日  
の2日間

参加学生：24名

司会：村田和代

話題提供：

1) 齋藤文彦

2) 豊田陽介

(気候ネットワーク)

3) 木原浩貴

(京都府地球温暖化防止活動センター)

12月5日	
09:30-10:00	オープニング ・入澤崇 (龍谷大学学長) ・板原征輝 (京都市環境政策局地球温暖化対策室室長) ・村田和代 (LORCセンター長/龍谷大学政策学部教授)
10:00-10:30	アイスブレイク・キーワード抽出
10:30-10:50	キーワードの共有
11:00-11:30	話題提供1「気候変動とSDGs」 ・齋藤文彦 (龍谷大学国際学部教授)
11:30-11:45	学生議論①
11:45-12:15	話題提供2「エネルギー」 ・豊田陽介 (気候ネットワーク)
12:15-12:30	学生議論②
12:30-13:30	休憩
13:30-13:45	話題提供3「建築物」 ・木原浩貴 (京都府地球温暖化防止活動推進センター)
13:45-13:55	学生議論③
13:55-14:10	話題提供4「交通」 ・豊田陽介
14:10-14:20	学生議論④
14:20-14:35	話題提供5「食べ物」 ・木原浩貴
14:35-14:45	学生議論⑤
14:55-16:00	グループワーク
16:00-16:20	ギャラリウォーキング
16:20-16:25	チェックアウト
12月11日	
09:30-09:40	オープニング
09:40-10:00	宿題の発表
10:00-10:10	追加情報の共有1「SDGs・気候危機・私たちの未来」 ・齋藤文彦
10:10-10:20	追加情報の共有2「気候変動問題と経済・産業・雇用の移行」 ・豊田陽介
10:20-12:20	グループワーク①「今と未来の間にあるもの」
12:20-13:30	休憩
13:30-14:20	発表とコメント
14:30-14:50	テーマ別ワーク「10年後の自分をイメージする」
14:50-15:50	グループワーク②「龍谷大学への提案」
15:50-16:10	ギャラリウォーキング
16:10-16:25	話題提供者による挨拶 ・木原浩貴 ・豊田陽介
16:25-16:30	チェックアウト 終了証書の授与

# 2日間の学生気候会議

## 1日目：

5グループに分かれ環境  
に対する問題意識の共有

→「グローバル、ナショナル、ローカルといった  
スケールごとに環境に対する認識や課題は異なる」「～しないといけない、～してはいけないというような我慢が強いら  
れるのか」

12月5日	
09:30-10:00	オープニング ・入澤崇（龍谷大学学長） ・板原征輝（京都市環境政策局地球温暖化対策室室長） ・村田和代（LORCセンター長／龍谷大学政策学部教授）
10:00-10:30	アイスブレイク・キーワード抽出
10:30-10:50	キーワードの共有
11:00-11:30	話題提供1「気候変動とSDGs」 ・斎藤文彦（龍谷大学国際学部教授）
11:30-11:45	学生議論①
11:45-12:15	話題提供2「エネルギー」 ・豊田陽介（気候ネットワーク）
12:15-12:30	学生議論②
12:30-13:30	休憩
13:30-13:45	話題提供3「建築物」 ・木原浩貴（京都府地球温暖化防止活動推進センター）
13:45-13:55	学生議論③
13:55-14:10	話題提供4「交通」 ・豊田陽介
14:10-14:20	学生議論④
14:20-14:35	話題提供5「食べ物」 ・木原浩貴
14:35-14:45	学生議論⑤
14:55-16:00	グループワーク
16:00-16:20	ギャラリーウォーキング
16:20-16:25	チェックアウト
12月11日	
09:30-09:40	オープニング
09:40-10:00	宿題の発表
10:00-10:10	追加情報の共有1「SDGs・気候危機・私たちの未来」 ・斎藤文彦
10:10-10:20	追加情報の共有2「気候変動問題と経済・産業・雇用の移行」 ・豊田陽介
10:20-12:20	グループワーク①「今と未来の間にあるもの」
12:20-13:30	休憩
13:30-14:20	発表とコメント
14:30-14:50	テーマ別ワーク「10年後の自分をイメージする」
14:50-15:50	グループワーク②「龍谷大学への提案」
15:50-16:10	ギャラリーウォーキング
16:10-16:25	話題提供者による挨拶 ・木原浩貴 ・豊田陽介
16:25-16:30	チェックアウト 終了証書の授与



# 2日間の学生気候会議 1日目：

①気候変動とSDGs（斎藤）

②エネルギー（豊田）

③学生議論

→話題提供した教員や専門家が学生の反応を見て話し合いに加わった。

④建築物（木原）

⑤交通（豊田）

⑥食べ物（木原）

⑦グループワーク

12月5日	
09:30-10:00	オープニング ・入澤崇（龍谷大学学長） ・板原征輝（京都市環境政策局地球温暖化対策室室長） ・村田和代（LORCセンター長／龍谷大学政策学部教授）
10:00-10:30	アイスブレイク・キーワード抽出
10:30-10:50	キーワードの共有
11:00-11:30	話題提供1「気候変動とSDGs」 ・斎藤文彦（龍谷大学国際学部教授）
11:30-11:45	学生議論①
11:45-12:15	話題提供2「エネルギー」 ・豊田陽介（気候ネットワーク）
12:15-12:30	学生議論②
12:30-13:30	休憩
13:30-13:45	話題提供3「建築物」 ・木原浩貴（京都府地球温暖化防止活動推進センター）
13:45-13:55	学生議論③
13:55-14:10	話題提供4「交通」 ・豊田陽介
14:10-14:20	学生議論④
14:20-14:35	話題提供5「食べ物」 ・木原浩貴
14:35-14:45	学生議論⑤
14:55-16:00	グループワーク
16:00-16:20	ギャラリーウォーキング
16:20-16:25	チェックアウト
12月11日	
09:30-09:40	オープニング
09:40-10:00	宿題の発表
10:00-10:10	追加情報の共有1「SDGs・気候危機・私たちの未来」 ・斎藤文彦
10:10-10:20	追加情報の共有2「気候変動問題と経済・産業・雇用の移行」 ・豊田陽介
10:20-12:20	グループワーク①「今と未来の間にあるもの」
12:20-13:30	休憩
13:30-14:20	発表とコメント
14:30-14:50	テーマ別ワーク「10年後の自分をイメージする」
14:50-15:50	グループワーク②「龍谷大学への提案」
15:50-16:10	ギャラリーウォーキング
16:10-16:25	話題提供者による挨拶 ・木原浩貴 ・豊田陽介
16:25-16:30	チェックアウト 終了証書の授与

# 2日間の学生気候会議

## 1日目：⑦グループワーク

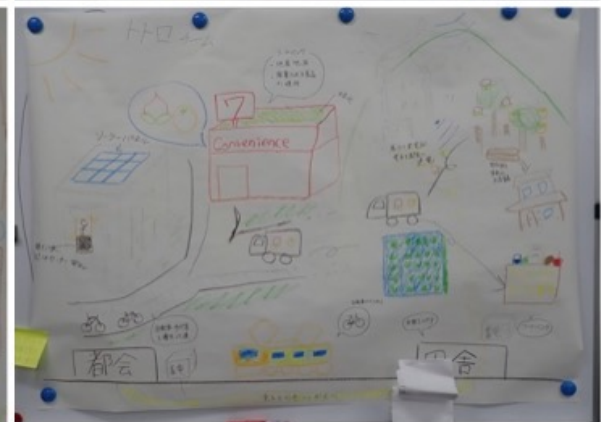
「10年後をイメージした脱炭素社会の姿」

望ましい状態と好ましくない状況の対比

都市と農村の相互依存関係

食べ物や住宅といった1つ1つの要素を深めることで、いかにしてより持続可能な社会に到達するか

地球全体が持続可能な社会へ移行するにあたっての重要な要素を描き出そうとした。



# 2日間の学生気候会議 2日目：

- ①SDGs・気候危機・私たちの未来（斎藤）
- ②気候変動問題と経済・産業・雇用の移行（豊田）
- ③グループワーク

12月5日	
09:30-10:00	オープニング ・入澤崇（龍谷大学学長） ・板原征輝（京都市環境政策局地球温暖化対策室室長） ・村田和代（LORCセンター長／龍谷大学政策学部教授）
10:00-10:30	アイスブレイク・キーワード抽出
10:30-10:50	キーワードの共有
11:00-11:30	話題提供1「気候変動とSDGs」 ・斎藤文彦（龍谷大学国際学部教授）
11:30-11:45	学生議論①
11:45-12:15	話題提供2「エネルギー」 ・豊田陽介（気候ネットワーク）
12:15-12:30	学生議論②
12:30-13:30	休憩
13:30-13:45	話題提供3「建築物」 ・木原浩貴（京都市地球温暖化防止活動推進センター）
13:45-13:55	学生議論③
13:55-14:10	話題提供4「交通」 ・豊田陽介
14:10-14:20	学生議論④
14:20-14:35	話題提供5「食べ物」 ・木原浩貴
14:35-14:45	学生議論⑤
14:55-16:00	グループワーク
16:00-16:20	ギャラリーウォーキング
16:20-16:25	チェックアウト
12月11日	
09:30-09:40	オープニング
09:40-10:00	宿題の発表
10:00-10:10	追加情報の共有1「SDGs・気候危機・私たちの未来」 ・斎藤文彦
10:10-10:20	追加情報の共有2「気候変動問題と経済・産業・雇用の移行」 ・豊田陽介
10:20-12:20	グループワーク①「今と未来の間にあるもの」
12:20-13:30	休憩
13:30-14:20	発表とコメント
14:30-14:50	テーマ別ワーク「10年後の自分をイメージする」
14:50-15:50	グループワーク②「龍谷大学への提案」
15:50-16:10	ギャラリーウォーキング
16:10-16:25	話題提供者による挨拶 ・木原浩貴 ・豊田陽介
16:25-16:30	チェックアウト 終了証書の授与

# 2日間の学生気候会議

## 2日目：

### ③グループワーク

「今と未来のあいだにあるもの」

→ **全てのグループ**において、**環境に対して関心の低い若者の現状をいかに変えていくか**について描かれていた







# 龍谷大学・京都市への貢献

- 「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」2022年1月27日
- 1日目の宿題として、京都市等の温暖化対策の取り組みについて調べる
- 京都市環境政策局地球温暖化対策室、京都市総合企画局総合政策室より来賓、オブザーバー参加 → 気候市民会議の(ミニ版)モデル事例として会議の準備、デザイン、実施状況、参加者の変化や出された意見等の共有

2022.01.27

## カーボンニュートラルを先導する大学としての決意を表明 「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」創立400周年を迎える 2039年にカーボンニュートラルを目指し、社会課題に向き合う大学として、次代の要請に応えた人材育成等に取り組む

### 【本件のポイント】

- メガソーラー発電所「龍谷ソーラーパーク」における先進的な取組実績等を踏まえ、「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を発出
- 国が目標とする2050年に先駆け、創立400周年を迎える2039年を目指し、カーボンニュートラル実現へ
- 現在進行中の長期計画を推進し、社会課題に積極的に取り組む大学として、カーボンニュートラル担い手の育成等に取り組む

### 【本件の概要】

龍谷大学（学長：入澤崇、所在地：京都市伏見区、以下：本学）は、世界的に深刻化する気候変動を背景として、教育・研究・社会連携・大学運営を網羅する「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を発出します（別紙参照）。

本宣言は、本学における先進的な取組実績を踏まえ、カーボンニュートラルを先導する大学としての決意を国内外に向けて表明するものです。



# 参加者の感想

- 楽しかった 50%、勉強になった50% <全員が肯定的感想>
- 多様な観点からの講義を通じた新しい学び、体系的な学び
- 学部・学年をこえたメンバーでの対話による気づきや学び
- 対面でのディスカッションの喜び
- 脱炭素社会形成に向けて主体性・積極性の醸成  
→人材育成

# 龍大学生気候会議の評価

- 参加学生、コーディネーター役の学生とともに、気候変動とグループワーク・コミュニケーションについての大きな学び
  - 参加者同士の積極的な参加と主体的な取り組み
  - 事前知識の量に関わらない対話とアイデア
  - 気候変動に対するイメージの変化が見られる→実現への道筋
  - 参加者が考えるきっかけ：「日々の生活で意識するようになった（参加者からの声）」
  - 参加者の一部が気候変動に関する新たな学生組織を立ち上げ
- 気候会議の主要素の1つである「気候ガバナンスにおける民主的正当性の付与」については、限定的な成果→京都市との連携、大学におけるカーボンニュートラル宣言実現の道程における位置付け





Dec.

# 龍谷大学 学生気候会議



CLIMATE STUDENT ASSEMBLY  
at RYUKOKU UNIVERSITY

# 2022

## WHAT IS 《学生気候会議》?



みなさんも「この夏はとても暑いな」とか、最近「異常気象続きだな」とか思っていないですか？これからの暮らしが気になる方、ぜひ一緒に地球の未来や私たちの将来について話しましょう。

龍谷大学は、設立400年を迎える2039年にカーボンニュートラルを目指しています。今回開催する《龍谷大学学生気候会議》では、「脱炭素社会」に向け、「食」「学び」「消費とゴミ」「移動」などをキーワードにみんなで議論します。

龍谷大学への提案をみんなで考えませんか？

- 会場** 龍谷大学 深草キャンパス ※感染状況に応じてオンライン開催の可能性あり
- 参加人数** 30-40名 ※2日間参加できることが条件です
- 方法** 右のQRコードからGoogle Formよりご応募ください  
応募締切: 11月10日(木)
- 謝礼** 5,000円のギフトカード

12.10 SAT  
12.17 SAT  
9:30 - 17:30 ごろ  
At the FUKAKUSA CAMPUS



主催 | 龍谷大学学生気候会議実行委員会、龍谷大学 LoRC 後援 | 龍谷チャレンジ for SDGs  
問い合わせ | lorc.contact@gmail.com

https://www.env.go.jp/press/press\_00776.html



本文へ >

English

ENHANCED BY Go

ホーム

環境省について

政策

法令

報道・広報

白書・統計

## 報道発表資料

[ホーム](#) > [報道・広報](#) > [報道発表一覧](#) > 脱炭素先行地域選定結果（第2回）について

2022年11月01日

大臣官房

### 脱炭素先行地域選定結果（第2回）について



# 今年度の取り組み

- 龍谷大学の「カーボンニュートラル」への取り組みに対する提言 → 昨年度の取り組みを活かしつつ、より気候会議の有する「気候ガバナンスへの民主的貢献」も意識
- 大学のカーボンフットプリントの情報を収集し、それを議論の際の資料として提示
- 昨年度の参加者が設立した学生団体による運営
- 無作為抽出による参加者の募集



# 主要参考文献

- 一般社団法人 環境政策対話研究所 2021a 『欧州気候市民会議：市民から変える脱炭素社会のゆくえ』 <https://inst-dep.com/>（最終閲覧日2022年10月20日）
- 一般社団法人 環境政策対話研究所 2021b 『欧州気候市民会議：脱炭素社会へのくじ引き民主主義の波』 <https://inst-dep.com/>（最終閲覧日2022年10月20日）
- 気候市民会議さっぽろ 2020 実行委員会（2021）『気候市民会議 さっぽろ 2020最終報告書』：[https://citizensassembly.jp/system/wp-content/uploads/2020/09/sapporo2020ca\\_final\\_report.pdf](https://citizensassembly.jp/system/wp-content/uploads/2020/09/sapporo2020ca_final_report.pdf)（最終閲覧日2022年10月20日）
- 斎藤文彦、的場信敬、村田和代、川井千敬、江欣樺、山崎暢子 2022 「龍谷大学学生気候会議：対話を通じた脱炭素社会の形成」村田和代編著『「対話」を通じたレジリエントな地域社会のデザイン』日本評論社 2022
- 三上直之2022.5 『気候民主主義：次世代の政治の動かし方』岩波書店

- Climate Assembly UK (2020). The path to net zero: Climate Assembly UK Full report, <https://www.climateassembly.uk/report/> (最終閲覧日2022年10月20日)
- Devaney, L., Torney, D., Brereton, P. and Coleman, M. (2020). “Ireland’s Citizens’ Assembly on Climate Change: Lessons for Deliberative Public Engagement and Communication,” *Environmental Communication*, 14(2), pp.141-146, DOI: 10.1080/17524032.2019.1708429, (最終閲覧日2022年10月20日)
- Earth4All 2022 Earth for All: A Survival Guide for Humanity, Executive Summary, <https://www.earth4all.life/visuals-and-briefs> (最終閲覧日2022年10月20日)
- Mellier, C. and Wilson, R. (2020). “Getting Climate Citizens’ Assemblies Right,” <https://carnegieeurope.eu/2020/11/05/getting-climate-citizens-assemblies-right-pub-83133>, (最終閲覧日2022年10月20日)
- OECD (2020). “Cities Policy Responses,” [https://read.oecd-ilibrary.org/view/?ref=126\\_126769-yen45847kf&title=Coronavirus-COVID-19-Cities-Policy-Responses](https://read.oecd-ilibrary.org/view/?ref=126_126769-yen45847kf&title=Coronavirus-COVID-19-Cities-Policy-Responses), (最終閲覧日2022年10月20日)
- Sandover, R., Moseley, A. and Devine-Wright, P. (2021). “Contrasting Views of Citizens’ Assemblies: Stakeholder Perceptions of Public Deliberation on Climate Change. *Politics and Governance*,” Vol. 9(2), pp.76-86, DOI: <https://doi.org/10.17645/pag.v9i2.4019> (最終閲覧日2022年10月20日)
- Wells, R., Howarth, C. and Brand-Correa, L. I. (2021). “Are citizen juries and assemblies on climate change driving democratic climate policymaking? An exploration of two case studies in the UK,” *Climatic Change*, 168(5), <https://doi.org/10.1007/s10584-021-03218-6>, (最終閲覧日2022年10月20日)